

コロナ収束を願ってともされたキャンドル



マスク外して 笑えるように

倉敷外語学院でキャンドルナイトリレー

リレーは昨年、特別養護老人ホームますみ荘(同市中島)が初めて企画し、県内の11高齢者福祉施設で実施。今年は県老人福祉施設協議会が希望施設を募集し、岡山、真庭市などの10施設が参加して9月にスタートした。倉敷市では同学院を皮切りに、24日に特別養護老人ホーム「庄の里」(同市山地)が行い、11月12日に同「サンバードナーシングホーム」(同市藤戸町藤戸)が予定している。

マスクを外して笑えるように。新型コロナウイルスの収束を願い、リレー形式で施設などをめぐって彩る「キャンドルナイトリレー」が、県内で行われている。22日には、倉敷市阿知の倉敷外語学院で行われ、同学院の学生らが約千個のキャンドルを点灯。新型コロナ感染症で亡くなった人を悼み、一日も早く日常に戻るよう願った。(藤本梨那)

コロナ収束願う



キャンドルを入れる紙コップには願いが書かれた

22日は、同学院とますみ荘、倉敷芸術科学大(同市連島町西之浦)、ろくそく製造のペガサスキャンドル(同市西阿知町)が協力して行った。

1階駐車場では、約500個のキャンドルで直径約3mの五つの円などを作成した。キャンドルを覆うプラスチックカップを、ピンク(春)、緑(夏)、白と黒(白昼)といったカラーで装飾し、四季と倉敷を表現。「1年を通して願いを込め、どこの思いを込め、円と円を「はやくマスクをはずしてみんなと一緒に笑えますように」など、ますみ荘の職員や利用者が願いを書いた紙コップで結んだ。

屋上には、キャンドルで「KURASHIKI」の文字とハートを描いた。この日の様子は、同大メディア映像学科の学生が撮影し、後日、ますみ荘の利用者らに見てもらい、同施設のYouTubeチャンネルでも公開する。

ますみ荘の小森琢彦施設長(45)は「介護施設では依然として制限が多く、緊張状態が続いている。キャンドルを見て少しでもリフレッシュしてもらえたらうれしい」と話した。

1000の灯 亡くなった人悼む